



～ ふるさとを愛し 自ら学び 未来に挑戦する建屋っ子の育成 ～

建小だより

養父市立建屋小学校 学校だより

令和4年6月6日 No.5



「修学旅行」に行ってきました

宮島・広島方面 1泊2日の旅

5月19日(木)～20日(金)、6年生4名、教職員3名の計7名で「修学旅行」に行ってきました。昨年と一昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響で奈良・京都方面へのバス旅行でしたが、今年は列車と新幹線を乗り継ぎ、3年ぶりに広島を訪れることができました。

旅行2日目の広島見学では、碑めぐりガイドの^{かみやま}上山さんと一緒に平和記念公園周辺を巡り、戦争の歴史や原子爆弾の脅威について理解を深めました。平和の時計塔の前で8時15分の鐘を聞いた後、公園内に設置されているベンチや記念碑、原爆の子の像、植栽されているバラの由来などについて一つ一つ説明を受けました。被爆地から最も近い小学校である本川小学校の資料室を訪れた際は、卒業生・上山さんをはじめとする広島市民の「核根絶」「恒久平和」への切実な願いが伝わってきて、胸が熱くなりました。

ロシアによるウクライナ侵攻が数ヶ月にわたり、世界中で反戦の気運が高まる中での広島訪問。全校児童で心を込めて折った千羽鶴を手向けながら黙祷を捧げ、平和を誓う6年生の顔は真剣そのものでした。目で見、耳で聞いて、多くのことを感じ取った修学旅行でした。

ガイドの最後、「平和の灯火」の前で上山さんが尋ねました。「この灯火は、いつ、誰が消すのですか」と。平和の実現は、政治家や大人、自分以外の誰かの役割ではなく、他ならぬ自分自身の役目・役割であることを教えてくださいました。



公園内に咲くバラの花々



原爆ドームを前に



原爆の子の像



千羽鶴を手に



アーチの向こうに平和の灯火



広島に原爆が投下されてから77年目の今年。来る8月6日の午前8時15分は、6年生にとって特別な意味をもつ時間になるはずです。

「田植え」を通して「いのちの授業」



5月24日（火）、建屋校区自治協議会・三谷校区自治協議会、学校運営協議会（コムスク）委員、「たきのやっ子応援団」の皆様にご協力いただきながら、全校児童で「田植え」を行いました。真夏のような日差しが照りつける中、田んぼに張られた紐の赤い丸を目印に、子ども達の手で苗が植えられました。「3本」と言われたものの、かなりの本数植えてしまったり、水が深くて苗がプカプカ浮いてしまったりと、悪戦苦闘しながらの田植えでした。でも、さすが高学年。低学年をサポートしながら慣れた手つきで苗を植えていく姿は、頼もしくもありました。

建屋地域の皆様が、「ふれあい体験・学びの場」として管理してくださっている田んぼで、「生き物のいのち」と「食への感謝」を学びます。可能な限り草取りには行きたいと思いますが、管理のほとんどをボランティアの皆様をお願いすることになります。秋の収穫後、「たきのやフェスティバル」で感謝をお届けする日まで、どうぞよろしくお祈りします。

田んぼ用語（順不同）

「田んぼは一日にして成らず」

畦塗り ・ 代掻き ・ 田起こし ・ 種まき
 畦草刈り ・ 除草 ・ 中干し ・ 落水（水抜き）
 脱穀 ・ 稲刈り ・ 深水管理 ・ 施肥



※私が子どもの頃は、田んぼのあちこちに何段もの稲木が立ち、ずっしりと実った稲穂が頭を垂れていたものですが、近年は手植え・手刈りの姿を見ることが少なくなりました。

自転車実習（3・4年）

5月20日（金）



自転車点検

ブ ブレーキ
 タ タイヤ
 ハ ハンドル
 シャ 車体
 ベル ベル

富田さん（建屋駐在署）にご指導いただき、自転車実習を行いました。事故に遭わないためにも、事故を起こさないためにも交通ルールを守ることや定期的な自転車点検が必要であることを学びました。

避難訓練（地震想定）・引き渡し訓練

おさない
 はしらない
 しゃべらない
 もどらない



地震を想定した避難訓練を行いました。子ども達は先生の指示に従い、真剣に落ち着いて行動することができました。地震が起きたら、まず命を守る行動をとる（頭を守る）→



揺れがおさまったら安全に避難することの大切さを学びました。体育館での一斉引き渡し訓練は3年ぶり。保護者の皆様、お忙しい中ご協力いただき、ありがとうございました。